

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック 保幼小中連携	保幼小中が一体となり、「つながり」を深める。	教科指導[教育課程]を通じて、保幼・小、小中、小小のつながりを深める。  <b>Plan</b> ・合同授業研で教科や教科外(支援・養護)部会の実施 ・月1回の小中担当者会の実施	H29年度の成果をもとに、各校の交流を深め、それぞれの園・学校で実践にうつしていく。[生活面も含む] ・月1回の小中担当者会の実施 ・合同授業研の実施 <b>Do</b> (掲示物・カリキュラム・連携カリキュラムなど。)	H29年度・H30年度の成果をもとに、目標実現にむけて、実践等の交流を深める。 ・月1回の小中担当者会の実施 ・合同授業研の実施 <b>See</b> ・課題を把握し、改善していく。
確かな学力の育成	『主体的・対話的で深い学び』の追求 次期学習指導要領を見据え、『主体的・対話的で深い学び』の実現ができるよう改革を進める。	『主体的・対話的で深い学び』の追求 ・朝の読書 ・学び舎(放課後学習会) ・研究授業・研究協議の実践 ・校内研修 ●growing up planの職員周知 ●今年度のテーマの周知及び実践交流 ・授業改善の取り組み(ビデオ交流など) ・授業交流(年間を通じて) ・授業頑張ろう週間(定期テスト後) ・ユニバーサルデザイン(教室等環境整備の観点から) ・ICT教育の推進 スクリーン教室常設設備	『主体的・対話的で深い学び』の実践 ・朝の読書 ・学び舎(放課後学習会) ・研究授業・研究協議の実践(西陵中ブロック-学びのシンポジウム対象) ・授業改善の取り組み ・授業交流週間(11月) ・授業頑張ろう週間(定期テスト後) ・校内研修(12月) ・ICT教育の推進	『主体的・対話的で深い学び』の実現 ・朝の読書 ・学び舎(放課後学習会) ・研究授業・研究協議の実践 ・校内研修 ・授業改善の取り組み ・授業交流週間(11月) ・授業頑張ろう週間(定期テスト後) ・校内研修(未定) ・ICT教育の推進
豊かな人間性を育む	互いの違いを認め合い、集団作りを深める。	<b>人権の観点から</b> ・新制服の導入に伴い、男女共生教育の理解を深める。	<b>人権の観点から</b> ・新制服の導入 ・男女共生教育の取り組みを進める。	<b>人権の観点から</b> ・男女共生教育をはじめ、お互いの違いを認め合い、集団作りを進める。
平和学習				
健康・体力の増進	調和のとれた体力を身につける。	男女とも体力テストにおいて全国平均を上回る項目を1つ増やす。 授業の準備運動にストレッチ運動を追加する。相手の状態にも気づいて欲しいので、2人組の運動を追加し、柔軟性の向上に取り組む。 カリキュラムのバランスを取る。 球技の授業時に体の使い方を指導に重点を置く。またウォーミングアップ時にボールを使用した運動も適宜取り入れていく。 ・食育や安全・防災教育の推進	男女とも体力テストにおいて全国平均を上回る項目を2つ増やす。 授業の準備運動にストレッチ運動を追加する。相手の状態にも気づいて欲しいので、2人組の運動を追加し、柔軟性の向上に取り組む。 カリキュラムのバランスを取る。 球技の授業時に体の使い方を指導に重点を置くだけでなく、日頃の筋力トレーニング工夫して体力の向上を目指す。 ・食育や安全・防災教育の推進	男女とも体力テストにおいて全国平均を上回る項目を3つ増やす。 授業の準備運動にストレッチ運動を追加する。相手の状態にも気づいて欲しいので、2人組の運動を追加し、柔軟性の向上に取り組む。 カリキュラムのバランスを取る。 球技の授業時に体の使い方を指導に重点を置くだけでなく、日頃の筋力トレーニング工夫して体力の向上を目指す。 ・食育や安全・防災教育の推進
支援教育の充実				

## 2

# 今年度の結果と取組みについて

## (1) 全国学力・学習状況調査

### 〇●国語●〇

#### 国語A

(領域ごと)

- ①話すこと・聞くこと  
大変良好な結果であった。
- ②書くこと  
良好な結果であった。
- ③読むこと  
良好な結果であった。
- ④言語事項  
良好な結果であった。

(問題形式)

- ①選択式  
良好な結果であった。
- ②短答式  
良好な結果であった。
- ③記述式  
出題なし

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

#### 国語B

(領域ごと)

- ①話すこと・聞くこと  
良好な結果であった。
- ②書くこと  
概ね良好な結果であった。
- ③読むこと  
良好な結果であった。
- ④言語事項  
良好な結果であった。

(問題形式)

- ①選択式  
大変良好な結果であった。
  - ②短答式  
出題なし
  - ③記述式  
概ね良好な結果であった。
- (無解答率)  
概ね良好な結果であった。

(その他)

#### 分析

A 問題も B 問題もよくできていたと感じられる。

特に A 問題の「話す・聞く」と B 問題の「選択式」では大変良好な結果であった。

全ての項目で全国平均を上回っているが、無解答率や B 問題の「書く」の領域では、より高い力を身につけさせていきたい。

# 〇●数学●〇

## 数学A

(領域ごと)

①数と式

大変良好な結果であった。

②図形

大変良好な結果であった。

③関数

大変良好な結果であった。

④資料の活用

良好な結果であった。

(問題形式)

①選択式

大変良好な結果であった。

②短答式

大変良好な結果であった。

③記述式

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

## 数学B

(領域ごと)

①数と式

大変良好な結果であった。

②図形

大変良好な結果であった。

③関数

大変良好な結果であった。

④資料の活用

大変良好な結果であった。

(問題形式)

①選択式

大変良好な結果であった。

②短答式

大変良好な結果であった。

③記述式

大変良好な結果であった。

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

## 分析

全体的に A 問題、B 問題ともによくできていたと思われる。

特に A 問題では関数、B 問題では図形の問題がよくできていた。計算を中心に基礎的な問題が比較的によくできていたと考察ができる。

無解答率も全国よりも低く、書くことがしっかりと定着している。

## 理科

### 理科

#### (分野等)

##### ①物理領域

良好な結果であった。

##### ②化学的領域

良好な結果であった。

##### ③生物的領域

良好な結果であった。

##### ④地学的領域

良好な結果であった。

#### (問題形式)

##### ①選択式

良好な結果であった。

##### ②短答式

大変良好な結果であった。

##### ③記述式

良好な結果であった。

#### (無解答率)

概ね良好な結果であった。

#### (その他)

### 分析

物理・化学・生物・地学の全領域において全国平均正答率を上回っており、良好な結果であったといえる。ただし、これまでの調査結果から校内平均正答率の値は下降傾向にある。

物理的領域を見ると、校内平均正答率が、全国平均正答率よりも高く、数学の正答率の高さを考えても、生徒は基礎的な学力を備えていると考えられる。

ただし、学校単位で見たときには地学的領域の正答率が最も低かった。地震分野の地震計の結果や天気分野の風向きの読み取りなど、理科特有の実験結果を用いた問題に対して正答率が低い傾向が見られ、「観察・実験の技能」や「科学的な思考・表現」の強化が必要であった。

問題形式に関しては、短答式の校内平均正答率が全国平均正答率を大きく上回っている一方で、記述式の校内平均正答率は低い結果となった。ここからも、基礎的な学力や知識などを活用する力の育成が必要であることがうかがえる。

## ○●経年比較●○

### 全体的な傾向についての分析

- ・全体的に、全国平均を上回っている。
- ・H22年度よりほぼ横ばいであった平均正答率であるが、過去10年間で一番良好な結果となっている。
- ・3年に1回の理科においては、平均正答率が下降傾向にあるため、対策をたてる必要がある。物理、地学分野に比べ生物、化学分野の強化が大切である。
- ・どの教科においても、無解答率が高い傾向にあるためその対策が必要である。

### 学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

- ・昨年度までと比べ、学力高位層は過去10年間で最も高く、低位層も同様に最も低く、大変良好な結果となっている。
- ・今年度は、例年と比べ良好な結果であるが、一喜一憂することなく、これまで同様「一人も見捨てへん教育」を念頭に、日々の授業においてきめ細かい指導や個に応じた指導など課題をやりきる力をつける等の取組みをさらに進めたい。

## ○●取組み●○

### 学力向上に関する取組み

\*昨年度に引き続き、下記の4項目について取組み、その成果をして検証している。

#### 朝の読書

- ・8:30の予鈴から10分間を読書の時間とし、取り組んでいる。生徒は予鈴で入室し、各自持参した本または学級文庫の本を読む習慣が確立している。
- ・8:35の本鈴に遅れる生徒はほとんどいなくなった。
- ・図書委員会とも連携し、学級文庫の本の選定や管理を行っている。
- ・クラスの仲間と、今読んでいる本の交流を行い、本への興味関心を高める取組みも推進している。
- ・生徒会とも連携し、今年度より、各教室に英和・和英・国語・漢和辞典を配置している。

#### 授業改善の取組み

- ・定期テスト前後に各学年の状態に応じて、チャイム着席・服装・授業準備などの点検活動を学級委員会、生活委員会と連携して取り組んでいる。授業が終わると次の授業の準備、チャイム着席、授業中は主体的に挙手をして発表する、私語はしない等、授業に取り組む姿勢を見直す機会でもあり、「授業を大切にする」気持ちを常に持ち、実行していくための取組みである。
- ・一昨年度より「本時の目標」、「ポイント」のステッカー、昨年度よりスクリーンの常設配置を行い、また2学期からは各教室に電子黒板が設置されたため、情報処理教育委員会と協力し、各教科におけるICTの有効的な活用の職員研修を行った。それにより、様々な教科の授業で効果的な活用が進められている。

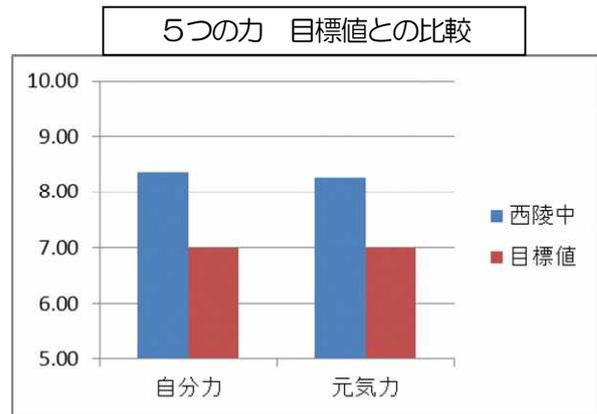
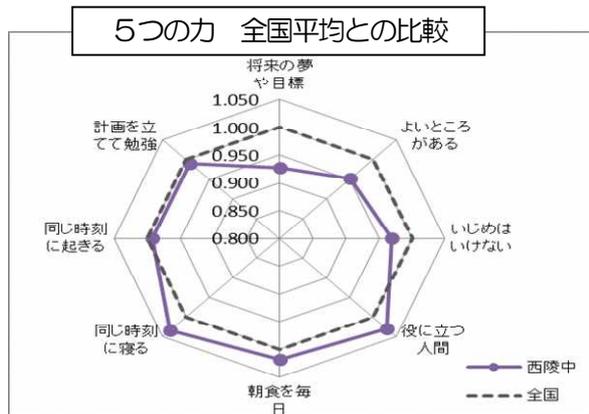
#### 研究授業・研究協議の実践

- ・年3回の研究授業（中学校ブロックも含む）時間を設定し、全教員が参観し、その後研究協議を行っている。
- ・校内の研究テーマ『主体的・対話的で深い学び』を見据えた授業実践について、研修会を通じて各教科で話し合い、積極的に授業見学することを奨励している。また学力保障委員会においては、2週間に1回程度、授業の参観を行い、よりよい授業交流に向けて、意見交流を行っている。
- ・今年度は、中学校ブロック（本校及び4小学校、幼稚園）が市の研究授業校となっているため、12月に合同研究授業を実施し、全教員で参加し、研究協議を行い、学びを深める場とする。

#### 学び～舎（放課後学習会）

- ・放課後の自主学習の場として、毎週木曜日に開いている。生徒が自分の課題を認識し、自主的に参加する場であり、毎週参加する生徒も出てきて参加者は増加傾向である。また分からないことを安心して聞ける場としても定着してきた。学び～舎では、生徒たちは担当教員だけでなく、学習支援員からもサポートを受けている。

# ○●子どもたちに育みたい力●○



今年度は簡易紙項目が大幅に変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較(レーダーチャート)は8項目、目標値との比較(棒グラフ)は、3項目とも実施した『自分力』と『元気力』のみとなっています。

## 分析

今年度は全国平均とほぼ横ばいの数値を示している。

学習状況調査をみると、

- 朝食を食べている生徒が83.5%と高い数値を示した。起きる時間や寝る時間が決められているなど、基本的な生活習慣が身についている。これは保護者の協力が大きいと思われる。ここ数年、予鈴登校もきちんとできている。
- 例年高い数値を示してきた「計画を立てて勉強している」と答えた生徒の割合が、全国平均を下回る結果となった。テスト直前だけの勉強に追われ、継続した学習が定着していない傾向がみられるため、学習を積み重ねることの重要性を意識させたい。
- 自分によりどころがあると認識する生徒の割合や将来の夢や目標をもっている生徒の割合が低く、自尊感情の低下や自分の可能性についての意識が低い生徒が多いと思われる。物事を最後までやり遂げて嬉しかった体験の少なさが要因といえる。
- 「いじめはどんな理由があってもいけないと思いますか」の問いに8割程度、肯定的な意見は示しているものの例年より低い傾向にある。その一方で、「人の役に立つ人間になりたいですか」との問いについては全国平均を上回り、何か社会の一員として社会のために役に立ちたい活躍したいと考える生徒は多い傾向にある。相手の気持ちを考えて行動することの大切さや仲間づくりなど学活や総合的な学習の時間を通して、人間形成づくりに力をいれ、社会に貢献できる力を養いたい。

## 取組み

### つながり力

- 生徒会活動や委員会活動、部活動など縦のつながりもしっかりと意識して取り組んでいる。
- ユニバーサルデザインの観点から、『本時の目標』・『ポイント』のステッカーを各教室に常設し子どもたちの学びにつなげている。また夏からの電子黒板設置に合わせてICTの推進に向けた職員研修を行い、様々な教科で授業実践をすすめている。[学び力も含む]
- 学級集団作り・班活動・委員会活動・リーダーの育成についても取組みを進めていきたい。

### 自分力

- 「人の役に立つ人間になりたい」という意識は昨年続き、高かった。これは日々の学活の取組みや道徳の授業実践の取組みが成果を上げているものと思われる。「他者への思いやり」「きまりを守る」という観点に力を入れながら、さらなる取組みを進めたい。

### ゆめ力

- 行事に取り組む姿勢は高いものの、夢や目標を持っている生徒の割合が下降傾向にある。自分の目標へ向かう進路決定や2年生で行う「福祉体験」等を通じて、視野を広げ、体験をしていく中で、自分の将来の夢や目標をもつことへの手がかりをつかんでほしい。

### 学び力

- 教師間で授業力を高めるよう意識しつつ、日常的な相互の授業参観を推奨している。授業やさまざまな学びを通じて、「できる」喜びを実感するとともに放課後学習会への積極的な参加など、学習意欲を高めるよう働きかけている。

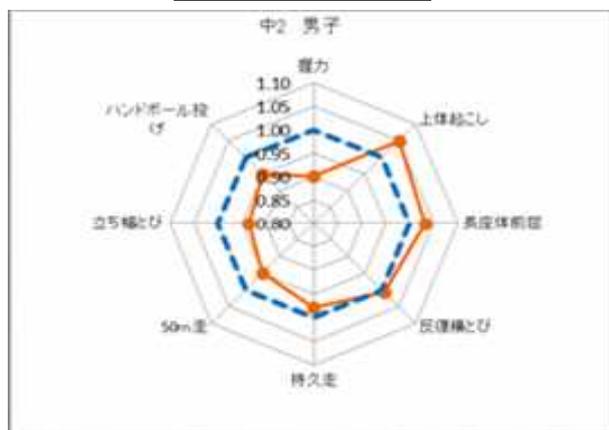
### 元気力

- 体育の時間に毎回補強運動を5種、ていねいに行っている。
- 号令時の発声を全員で行うことを、全学年の体育の授業で徹底している。

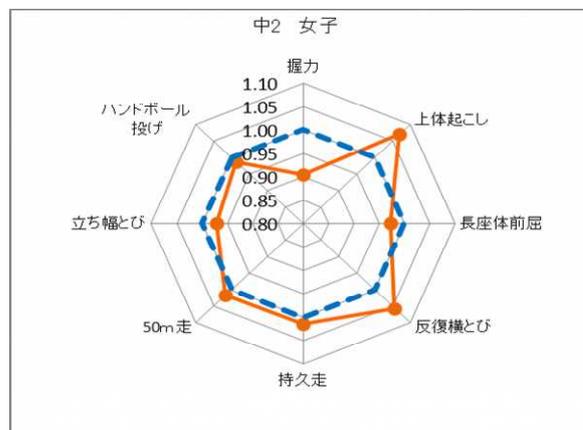
## (2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

### ○●体力●○

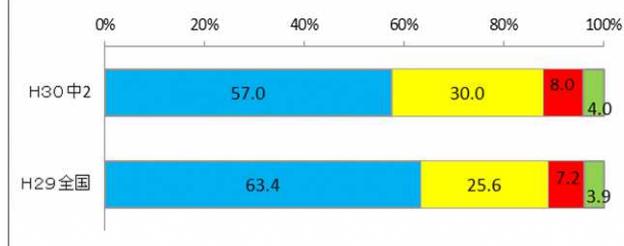
男子 (中2)



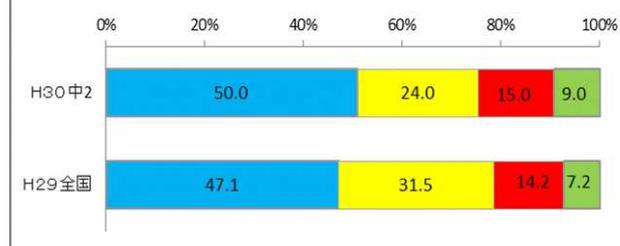
女子 (中2)



運動・スポーツが好きですか(中2男子)



運動・スポーツが好きですか(中2女子)



■好き ■やや好き ■ややきらい ■きらい

### 分析

#### 男子

全国平均を1として比較すると全体的に秀でていないが、上体起こし、長座体前屈、反復横跳びで全国平均をわずかに上回っている。握力とハンドボール投げは昨日から全国平均を下回っている。しかし昨年度と比べると全国平均との差は少なくなったと言える。持久走、50m走、立ち幅跳びも全国平均を下回る結果となった。

#### 女子

上体起こし、反復横跳び、持久走、50m走は全国平均を上回っている。ハンドボール投げは練習する機会を多く取り入れたのがよかったのか、全国平均まで到達した。

男女ともに握力が全国平均を下回っている。授業で用具を手や腕で扱う機会が少ないことが今回の結果につながったのではないかと考える。今後の課題としてソフトボールでのバッティングやラケット種目を行う機会を増やすようにする。

### 取組み

毎回の授業で基礎体力向上のために補強運動(腕立て伏せ、腹筋、背筋、スクワット、馬跳びなど)を行うようにしている。学年ごとに回数を変え、強度を上げている。

昨年度に引き続き授業でボールを使うことは意識的に行っていく。測定に際して、1年前の記録を知らせ、個人的な目標を持たせていきたい。